

夏休み



学生時代は夏休みがあった。また、現役で働いていた時も1週間程度の夏休みを取っていた。リタイアしてからは毎日が休みかと思っていたが、高齢者のための大学校でボランティアをするようになってからは、夏休みが2ヶ月あるだけになった。それで、関東の孫に会いに行ったし、小旅行にも出かけようとも思っている。

われわれ世代にとっての夏休みの情景は、吉田拓郎の「夏休み」である。

- 1 麦わら帽子は もう消えた たんぼの蛙は もう消えた それでも待ってる 夏休み
- 2 姉さん先生 もういない きれいな先生 もういない それでも待ってる 夏休み
- 3 絵日記つけてた 夏休み 花火を買ってた 夏休み 指折り待ってた 夏休み
- 4 畑のトンボは どこ行った あの時逃がして あげたのに ひとりで待ってた 夏休み
- 5 西瓜を食べてた 夏休み 水まきしたっけ 夏休み ひまわり 夕立 せみの声

ところで、聖書に「夏休み」という言葉はないが、「夏」が出てくる箴言の箇所は、

夏のうちに食物を確保し、刈り入れ時に食糧を集める。(箴言 6章 8節)

夏のうちに集める者は賢い子。刈り入れ時に眠る者は恥知らずな子。(箴言 10章 5節)

蟻は力のないものたちだが、夏のうちに食糧を確保する。(箴言 30章 25節)

とあり、「夏」は勤勉さの象徴である。逆に、勤勉に働いているから「夏休み」は楽しい思い出なのか知れませんね。